

地方創生関連事業に関する実績検証資料 【平成30年度】

担当課・外部検証委員の評価 A:このまま継続 B:改善・見直し C:廃止・終了

地域再生計画名	地方創生関連制度名	個別事業の概要	本年度の内容・実績及び事業費 (単位:円)	総事業費 (単位:円)	重要業績評価指標(KPI)			担当課の検証① (KPIに関する検証については、 計画申請課が総括)		外部検証委員の検証	
					指標	本年度見込値	本年度実績値	評価	KPI・実績に対する見解と今後の方針	評価	主な意見
里山ましこに「住みたい!」「住んでよかった!!」「ずっと住み続けたい!!!」移住・定住プロジェクト	地方創生推進交付金 (1/2国庫補助)	里山ましこに「住みたい!」「住んでよかった!!」「ずっと住み続けたい!!!」移住・定住プロジェクトのKPIに関する検証 →									
		<p>【移住・定住ワンストップ化の深化】 移住専用ワンストップサイト、サポートセンター窓口及び首都圏等移住セミナーでタブレット端末を活用し、きめ細やかな情報提供を継続する。</p> <p>【担当課:企画課】</p>	<p>■ワンストップ窓口の深化 ・ワンストップ窓口(道の駅ましこ内サポートセンター)の環境の整備を図り、きめ細やかな情報提供を行った。相談件数【道の駅:55件】【役場:36件】</p> <p>【事業費】97,200円 専用HP賃借料、タブレット端末通信費</p>	10,740,629	①転入者数(4~3月) 基準値:530人	①560人	①529人	B 改善・見直し	KPIのうち①、②は、町政全般が関連する総合的なKPIであったため、3年間の取り組みではKPIの達成とはならなかった。31年度以降は、ターゲットに沿った更なる事業の磨き上げを行い、移住希望者の定着が測れるようなきめ細やかな対応を行っていく。	B 改善・見直し 5委員	移住・定住者の増加は、もっと魅力ある内容がなければ難しい。 移住希望者の掘り起こしを強化すべき。 子どもが大学等に進学した後地元に戻ってきたい魅力や、小・中学校時代に強く感じてもらえるような施策が必要である。
		<p>【空き家活用事業】 空き家バンクへの登録については、所有者本人からの申請のみとする予定だが、全町的な空き家調査を行うことで潜在物件を掘り出し、町からのアプローチにより登録件数の充実を図り、今後増加が予想される移住希望者ニーズに応えられるようにするための基礎調査を行う。なお、政策間連携としての特定空家の調査を併せて行う。 また、調査結果の活用として、空き家バンクへの登録促進及び活用促進のため、調査で掘り出した古民家等を利用した「お試し住宅」を開設し、移住の最終判断、交流の拠点等として活用する。 貸借料(家賃)等</p> <p>【担当課:企画課】</p>	<p>■空き家バンクの運用 ・29年度に実施した空き家調査に基づき、昨年度に引き続き空き家バンクを運用したほか、新たな空き家の追加登録や空き家の購入・賃借希望者への情報提供を行った。 ・空き家バンク登録:22件、成約:12件</p> <p>【事業費】0円</p> <p>■お試し住宅運営 ・角の川地内の民間空き家を賃貸し、移住希望者へ中期的(1~2か月)に貸付けする事業。貸付料:1か月3万円(光熱水費込)。 ・30年1月から貸出しを開始。30年度(4~3月)の貸付実績:5件(16人)。</p> <p>【事業費】633,035円 賃貸借料(家賃)、光熱水費、燃料費等 ※家賃収入178,000円</p>		②出生数(4~3月) 基準値:166人	②182人	②112人	B 改善・見直し	役場企画課窓口と道の駅での相談数の合計(91件)は、29年度実績の99件よりやや減少したが、うち道の駅分を比較すると、29年度実績の27件から倍増した。今後は、道の駅での対応を主眼に、相談者にきめ細やかな対応をとれるようにしていく必要がある。	B 改善・見直し 5委員	情報発信方法を研究すべきではないか。
		③観光客入込数(1~12月) 基準値:196.4万人	③230万人		③275万人	B 改善・見直し	栃木県宅建協会の資料によれば、県内市町の空き家バンクの成約率について、本町は72.4%で全体で3位(上位は2市が75%)であるが、さらに登録件数を増やし、定住希望者のニーズに応えられるようにする必要がある。また、空き家バンクの運営の中で、相続や農地転用手続きなどの登録時の障壁が現れたので、専門家である町内協力不動産業者との意見交換を進めていく。 お試し住宅については、将来的に移住につなげられるように、入居者へのフォローを積極的に行っていく必要がある。	A このまま継続 1委員  B 改善・見直し 4委員	空き家バンクの登録件数の更なる増加を図るべき。		

地方創生関連事業に関する実績検証資料 【平成30年度】

担当課・外部検証委員の評価 A:このまま継続 B:改善・見直し C:廃止・終了

地域再生計画名	地方創生関連制度名	個別事業の概要	本年度の内容・実績及び事業費 (単位:円)	総事業費 (単位:円)	重要業績評価指標(KPI)			担当課の検証① (KPIに関する検証については、 計画申請課が総括)		外部検証委員の検証	
					指標	本年度見込値	本年度実績値	評価	KPI・実績に対する見解と今後の方針	評価	主な意見
里山ましこに「住みたい!」「住んでよかった!」「ずっと住み続けたい!!!」移住・定住プロジェクト	地方創生推進交付金 (1/2国庫補助)	<p>【移住情報発信・ましこの暮らし体験ツアー】 移住ターゲット(第1ターゲット:県内主要都市在住者、第2ターゲット:首都圏在住者)に合わせた媒体(ウェブ、新聞、雑誌、情報誌、移住ガイドブック、プロモーションビデオ等)を活用した効果的な情報発信とともに、首都圏での移住セミナーを行う。また、伝統的工芸品である益子焼、里山、農業等の地域資源を活用し、「ましこの暮らし」そのものを体験する体験ツアーを開催する(町内業者・団体へ業務委託を想定)。</p> <p>【担当課:企画課・観光商工課】</p>	<p>■移住セミナー相談会 ・東京都内において、移住セミナー・相談会を開催し、首都圏在住者向け移住に関する情報発信・相談を行った。相談件数:4回33件。</p> <p>【事業費】182,682円 出展料、消耗品費等</p> <p>■移住・定住促進広報紙 益子の暮らしの想像と、実現の一助に資するための冊子を作成し、近隣工業団地等事業所、相談会等で配布した。新規作成3,800部。</p> <p>【事業費】1,483,821円 版下作成費、印刷費、郵送料等</p> <p>■マーケティング ・大手通信会社に委託し、利用者を対象とした任意のアンケート調査を行い、移住に関する全国的な意識調査を行った。また、転入者・転出者に益子町に関する意識調査を行った。</p> <p>【事業費】276,946円 委託料、郵送料、消耗品費</p> <p>■移住体験ツアー ・本町への移住者であり、各方面で活躍するの方の仕事・暮らしを現地での体験と意見交換を通じ、益子の暮らしの想像と、実現の一助に資するためのツアーを開催した。2回9組13人参加。</p> <p>【事業費】740,000円 ツアー委託費</p> <p>【担当課:企画課】</p>	10,740,629	再掲	再掲	再掲	B 改善・見直し	<p>移住セミナー相談会については、相談件数が29年度(63件)と比べて相談件数が減少したため、より集客力のあるセミナーに積極的に参加していくことで、効率の良い情報発信に努める必要がある。</p> <p>また、30年度に行ったマーケティング調査の結果をもとに、新たに作成した広報誌を活用しながら、今後はさらに効果的な情報発信を行っていく。</p> <p>移住体験ツアーについては、参加者数は29年度(2回7組14名)と同程度であったが、定員を満たすことが困難であったため、情報発信の方法やターゲットを絞った内容にするなどの見直しを行う必要がある。</p>	B 改善・見直し 5委員	<p>より参加者の増加を望む。</p> <p>全体としてはBだが、ツアー参加者が直接益子町への移住につながらないならば、廃止も検討すべき。</p> <p>どこにでもある風景よりも、益子らしさを前面に出したPR方法を研究すべき。</p>

地方創生関連事業に関する実績検証資料 【平成30年度】

担当課・外部検証委員の評価 A:このまま継続 B:改善・見直し C:廃止・終了

地域再生計画名	地方創生関連制度名	個別事業の概要	本年度の内容・実績及び事業費 (単位:円)	総事業費 (単位:円)	重要業績評価指標(KPI)			担当課の検証① (KPIに関する検証については、 計画申請課が総括)		外部検証委員の検証	
					指標	本年度見込値	本年度実績値	評価	KPI・実績に対する見解と今後の方針	評価	主な意見
里山ましこに「住みたい」「住んでよかった!!」「ずっと住み続けたい!!!」移住・定住プロジェクト	地方創生推進交付金 (1/2国庫補助)	<p>【移住情報発信・ましこの暮らし体験ツアー】</p> <p>移住ターゲット(第1ターゲット:県内主要都市在住者、第2ターゲット:首都圏在住者)に合わせた媒体(ウェブ、新聞、雑誌、情報誌、移住ガイドブック、プロモーションビデオ等)を活用した効果的な情報発信とともに、首都圏での移住セミナーを行う。また、伝統的工芸品である益子焼、里山、農業等の地域資源を活用し、「ましこの暮らし」そのものを体験する体験ツアーを開催する(町内業者・団体の活動を支援)。</p> <p>【担当課:企画課・観光商工課】</p>	<p>■ラーニングパッケージ 町内で体験型ツーリズムに取り組む4団体の活動を支援した。小麦栽培、藍染め、料理教室、野菜の収穫体験等の内容で実施された。全12回。参加者数は145人。</p> <p>【事業費】800,000円 実施主体への交付金</p> <p>【担当課:観光商工課】</p>	再掲 再掲 10,740,629	再掲	再掲	再掲	A このまま継続	参加者に実施したアンケート調査の結果によれば、満足・やや満足の回答が97%あり、リピーターの微増もみられる。今後もさらに滞在型観光の実現に向けた展開を図っていく。	A このまま継続 2委員  B 改善・見直し 2委員	宿泊型の体験の導入を検討されたい。  移住・定住希望者をターゲットとすることを検討されたい。(2委員)
		<p>【移住・定住促進のための就労支援・雇用創造事業】</p> <p>若年層の県内主要都市への転出抑制とともに、Uターンをはじめとした移住者・移住希望者の就労機会を確保するための雇用拡大、人材育成、就職促進、雇用創出実践等の地域に職を求め・職をつくるメニューの実施とともに、マッチング、インターンシップを支援し、町内での就職希望者にあつては個人のスキルアップ、事業主においては自発的な雇用創造のための説明会、セミナー、相談会を開催する。</p> <p>【担当課:観光商工課】</p>	<p>■就労支援・雇用創造事業 求職者、起業希望者のスキルアップのためのセミナーと合同就職面接会を開催した。セミナーは、21回開催し参加者99人、延べ人数284人であった。うち就職者15人、創業者2人を出すことができた。また、合同就職面接会を1回開催し、益子町からの参加企業数は10社で採用者は12名(内町民5名)であった。</p> <p>【事業費】6,704,945円 事業推進員人件費、セミナー委託料、チラシ・ポスター印刷費等</p>		再掲	再掲	再掲				

地方創生関連事業に関する実績検証資料 【平成30年度】

担当課・外部検証委員の評価 A:このまま継続 B:改善・見直し C:廃止・終了

地域再生計画名	地方創生関連制度名	個別事業の概要	本年度の内容・実績及び事業費 (単位:円)	総事業費 (単位:円)	重要業績評価指標(KPI)			担当課の検証① ( KPIに関する検証については、 計画申請課が総括 )		外部検証委員の検証	
					指標	本年度見込値	本年度実績値	評価	KPI・実績に対する見解と今後の方針	評価	主な意見
ツール・ド・とちぎを核とした地方創生推進事業	地方創生推進交付金 (1/2国庫補助)	<p>【ツール・ド・とちぎ事業】 ツール・ド・とちぎ開催準備に係る負担金</p> <p>なお、本事業は栃木県及び県内全市町との広域連携事業</p> <p>【担当課:企画課】</p>	<p>■ツール・ド・とちぎ支援事業 ・平成28・29年度に引き続き、国際公認サイクルロードレース「ツール・ド・とちぎ」の第3回大会が平成31年3月22日(金)～24日(日)の3日間にわたり開催された。 ・今回は町内はコースとならず、近隣では3月22日(金)に真岡市井頭公園にて個人タイムトライアルレースが開催され、およそ9千人の観客動員があった。 ・なお、来年度は29年度と同様に町内を通るコースが検討されており、町外から訪れる来場者に町の魅力を知っていただき、今後、通過コース自体が新たな地域資源の一つとして活用されるようになればと考える。</p> <p>【事業費】700,000円 実施主体:NPO法人ツール・ド・とちぎの会への負担金</p>	700,000	<p>①公営レンタサイクル利用者数 基準値:56,710人</p> <p>②ツール・ド・とちぎ公式HP閲覧回数 基準値:1.6万回</p> <p>③外国人宿泊者数 基準値:18.1万人</p> <p>④観光消費額 基準値:5,132億円</p>	<p>①58,902人</p> <p>②20.4万回</p> <p>③25.0万人</p> <p>④6,410億円</p>	<p>①73,482人</p> <p>②21.61万回</p> <p>③22.3万人</p> <p>④6,297億円</p>	A このまま継続	<p>本事業は県事業であることから、県が事業実施をしていく限り、今後も地域振興と活性化のため、県と連携し支援できればと考えている。</p>	A このまま継続 2委員	<p>ファンサービス・企画等を工夫し、来町者の滞在時間を長く保てるようにする必要がある(3委員)。</p> <p>来町者の町内消費の拡大につながる工夫が必要である。</p> <p>各市町で前夜祭もしくは後夜祭などを輪番で行ってはどうか。</p>

地方創生関連事業に関する実績検証資料 【平成30年度】

担当課・外部検証委員の評価 A:このまま継続 B:改善・見直し C:廃止・終了

地域再生計画名	地方創生関連制度名	個別事業の概要	本年度の内容・実績及び事業費 (単位:円)	総事業費 (単位:円)	重要業績評価指標(KPI)			担当課の検証① (KPIに関する検証については、 計画申請課が総括)		外部検証委員の検証	
					指標	本年度見込値	本年度実績値	評価	KPI・実績に対する見解と今後の方針	評価	主な意見
引き出せ能力・伸ばせ才能・子育て応援プロジェクト	地方創生拠点整備交付金 (1/2国庫補助)	<p>【子ども子育て支援拠点施設整備事業】 益子町育脳プログラムの活用による未来にはばたく人財の育成及び子育てを地域ぐるみで育む環境づくりを目指すための拠点として、子ども子育て支援施設を設置する。子どもや若い世代を中心とした多世代交流、情報交換や催し物を開催し、併せて、空き店舗の活用により街中の活性化を図る。 町外からの子育て中の若い世代の利用も積極的に受け入れることで、町内外者の世代間交流から若い世代の移住・定住を促進する。</p> <p>【担当課:健康福祉課】</p>	<p>■外構工事等 ・子ども子育て拠点施設の外構工事を行ったほか、玩具などの備品を購入した。</p> <p>【事業費】32,322,400円 工事請負費、備品購入費、木製ベンチ・プランター作成業務委託料</p> <p>■施設開設 ・7月8日オープンセレモニー実施。日中は子育て施設、夜は学習室として開放(学習室は利用者が少なく、1月末で終了)。</p> <p>【事業費】10,640,354円 人件費、通信費、光熱水費、保守警備委託料、消耗品費</p> <p>■施設運営 ・漆喰の壁に手形で絵を描くワークショップ開催、伝統食継承で子どもが食べられるお正月講習会、地域の行事に雛めぐりの会場として参加など</p>	42,962,754	①施設利用者数 基準値:0人	①1,000人	①8,118人	A このまま継続	見込より施設利用者が多かったが更なる増を目指したい。従来の親子遊びのほかにも内容を充実させ、地域との交流ができるような企画を立てたい。一周年のイベントも計画。また、保健センター職員による子育て講座のほか、先輩ママがファシリテーターとなり母親同士の交流会も実施する。	A このまま継続 4委員	活動内容・イベント等の広報は、今後方法等を十分検討して進めたい。(3委員)
②年間出生数 基準値:164人 (4~3月)	②182人	②112人	企画の面で、町外の方への発信には、道の駅などを活用するのも1つの手であると考えている。								
③人口の社会動態 基準値:▲24人 (4~3月)	③±0人	③▲120人	町外利用者も多いとのことなので、今後は移住者が増えるように町のPRも行ってはどうか。  町民大学5期生等ボランティアを募り、夏祭りやイベントを開催してはどうか。  学習室は、他の場所での検討をお願いしたい。								

地方創生関連事業に関する実績検証資料 【平成30年度】

担当課・外部検証委員の評価 A:このまま継続 B:改善・見直し C:廃止・終了

地域再生計画名	地方創生関連制度名	個別事業の概要	本年度の内容・実績及び事業費 (単位:円)	総事業費 (単位:円)	重要業績評価指標(KPI)			担当課の検証 ① ( KPIに関する検証については、 計画申請課が総括 )		外部検証委員の検証	
					指標	本年度見込値	本年度実績値	評価	KPI・実績に対する見解と今後の方針	評価	主な意見
ましこ観光振興推進プロジェクト	地方創生拠点整備交付金 (1/2国庫補助)	【(仮称)平成館改修事業】 滞在型の観光地づくりを推進するため、皇室ゆかりの歴史的建築物である「平成館」(明治15年頃建築。戦時中は皇室の疎開先として利用。昭和48年に本町内へ移築。平成28年寄付により町所有)を新たに宿泊施設として改修し、宿泊施設の充実と、さまざまなおもてなしにより観光客の誘客を図る。  【担当課:観光商工課】	<p>■改修工事</p> <p>・29年度は(仮称)平成館改修事業第2期工事として、とりこわし、内装、建具、左官、給排水設備工事等を行った。</p> <p>【事業費】68,299,200円 工事請負費</p> <p>※29年度事業完了</p>	68,299,200	①(仮称)平成館宿泊者数 基準値 0人	①②工事中のため、H31年度から捕捉	①②工事中のため、H31年度から捕捉	B 改善・見直し	施設の宿泊者数および収入額のKPIは、開業してから捕捉するものとしている。観光客宿泊者数については、見込みを上回る実績となっており、施設開業によって、更なるKPI向上を図りたい。改修工事としての事業は完了した。	A このまま継続 2委員  B 改善・見直し 2委員	益子町独自の施設PRとなるよう工夫されたい。  委託業者との当初の契約年数と条件について、3年ごとに見直しをしてはどうか。  上皇陛下に訪問していただけるよう働きかけてはどうか。
滞在型観光地づくりを目指して～皇室ゆかりの歴史的建築物(仮称)平成館改修事業～	地方創生応援税制(企業版ふるさと納税)	<p>■改修工事</p> <p>・(仮称)平成館改修事業第3期工事として、主に玄関・風呂・宿直室・厨房・ギャラリーの内装、建具、左官等の他、外構工事、電話工事を行った。</p> <p>【事業費】60,696,000円 工事請負費</p> <p>【寄附実績】 イトランド(株)(宇都宮市) 医)東京中央美容外科(東京都) はが野農業協同組合(真岡市) 以上3社</p>	60,696,000	③観光客宿泊者数 基準値 21,337人 (H27.1～12)	③26,000人	③47,515人					

地方創生関連事業に関する実績検証資料 【平成30年度】

担当課・外部検証委員の評価 A:このまま継続 B:改善・見直し C:廃止・終了

地域再生計画名	地方創生関連制度名	個別事業の概要	本年度の内容・実績及び事業費 (単位:円)	総事業費 (単位:円)	重要業績評価指標(KPI)			担当課の検証① (KPIに関する検証については、 計画申請課が総括)		外部検証委員の検証		
					指標	本年度見込値	本年度実績値	評価	KPI・実績に対する見解と今後の方針	評価	主な意見	
伝統的工芸品益子焼を基盤とした「観光を基幹産業化」するためのまちづくり事業	地方創生推進交付金 (1/2国庫補助)	伝統的工芸品益子焼を基盤とした「観光を基幹産業化」するためのまちづくり事業のKPIに関する検証 →			6,052,560	①地域活性化のための講習会参加者のうち就職者数(延べ人数)0人 ②一人当たり観光消費額0円 ③海外向け観光情報コンテンツの閲覧回数173回 ④本事業を通じた移住・定住相談件数169件	①H30年度は未実施のため、H31年度から捕捉 ②7,000円 ③223回 ④200人	①H30年度は未実施のため、H31年度から捕捉 ②6,671円 ③229回 ④133人	B 改善・見直し	観光消費額が未達成であり、マーケティング調査を活かした、効果的な観光戦略が必要と考える。観光戦略アドバイザーの指導を基に推進していく。海外向けコンテンツの閲覧回数は、おおむね見込みどおりの実績が出ており、引き続き効果的なコンテンツ発信に努めていく。移住・定住相談件数の減少は、29年度には40組の来場者があった都内開催のイベントが30年度はなかったことが主な原因であるため、今後は参加者が見込めるイベントを見極めて出展していく必要がある。	B 改善・見直し 4委員	海外向けコンテンツの閲覧回数は、目標値が低いように思われる。SNS等コンテンツの工夫をされたい。
		【マーケティング調査事業】 地域における一人あたりの観光消費額等を調査し、事業展開のためのデータ蓄積を行う。 【担当課:観光商工課】	■マーケティング調査事業 パラメータ調査業務 ポイントカードシステム構築業務 【事業費】2,302,560円 委託料						B 改善・見直し	パラメータ調査の結果、日帰り観光が90%を超えてる結果となった。付加価値を付けた観光と、滞在型観光の推進が、観光消費額の増に繋がると考え、調査結果を基に検討していく。	B 改善・見直し 4委員	キャッシュレス対応の強化をされたい。
		【観光戦略アドバイザー委託事業】 山田桂一郎氏を招聘し、マネジメント及びマーケティング体制づくりからはじめるためのアドバイス等をいただく。 【担当課:観光商工課】	■観光戦略アドバイザー委託事業 観光戦略アドバイザー委託 【事業費】1,750,000円 委託料						B 改善・見直し	マーケティング調査事業から見えてくる観光客の動向・消費の実態を基に、観光戦略アドバイザーの指導の基に観光消費額を増やすしくみを検討していく。	B 改善・見直し 4委員	関係事業者への情報開示が十分でないと思われる。
		【地域産品(農産物)を活用した新商品開発事業】 町では、道の駅の運営体であり、地域再生推進法人の指定を受けている地域商社「株式会社ましこカンパニー」と連携し、民間ノウハウを活用した付加価値の高い地場商品の開発に着手し、総合的な地域産業の振興を進めていく。 【担当課:農政課】	■交付金 地域農産物商品開発事業 【事業費】2,000,000円 交付金1/2 【商品】(開発数)開発商品10点 開発中商品9点						A このまま継続	商品開発に関してはニーズに応じた多数の品目点数を開発し、顧客の支持を得るなど順調に推移しており、今後も継続して事業を実施していく。	A このまま継続 3委員 B 改善・見直し 1委員	ギフトカタログを含め、商品数を増やしていただきたい。